

一人一人が地域の主役
「住民主役」のまちづくり



地域コミュニティづくり ガイドライン

【協議会設立編】



香春町役場 まちづくり課

令和5年11月

目次

1. はじめに.....	2
2. 本町における地域づくりに関する方向性.....	3
総合計画における取り組み	
まち・ひと・しごと創生総合戦略における取り組み	
3. 新しい地域コミュニティについて.....	4
4. コミュニティ協議会の仕組み.....	5
形成エリア	
5. コミュニティ協議会に期待されるもの.....	6
自助、共助の強化	
地域人材の育成	
6. 地域づくり計画とその重要性.....	7
総合計画における取り組み	
総合戦略における取り組み	
7. コミュニティ協議会設立までの流れ.....	8
8. 準備会をつくろう！.....	9
準備会の役割	
地域の機運を高めるためには	
9. 地域ワークショップを開こう！.....	10
10. 誰もが安心して暮らし続けることができる町へ.....	11

1. はじめに

近年、少子化や高齢化により人口減少が進んでいますが、香春町を含む過疎地域は、今後とも更に人口減少が加速することが予想されています。人口減少の影響により、学校の統廃合をはじめ、事業者の撤退、耕作放棄地の増加などの社会環境を含めた変化が起こっていますが、この変化は、集落機能の維持に直結しているため、生活での困り事が顕著に見られる地域が増えました。この状況が続くと、現在問題なく暮らしている地域でも、20年、30年後には今の暮らしが維持できなくなっているかもしれません。

このような事態に鑑み、本町では、事業計画の中でも様々な施策を実施しているところですが、地域コミュニティの活性化もその中の重点施策とし、推進しているところです。社会情勢が大きく変わってきていることから、多様化・複雑化している地域課題への対応が難しくなっているため、様々な世代の方たちと知恵を出し合い、複雑化している課題に対応していくことが求められています。

住民一人一人が未来を見据えて考え、地域がつながり動き出すことで、予想されている未来とは違う「新しい地域の未来」が見えてくるのではないのでしょうか。

これからも住み続けられる町や地域となるよう、また、豊かな香春町を次世代に引き継いでいくために、香春町は、地域の力を集める仕組みとして『地域運営組織（コミュニティ協議会）』の設立を提案しています。このガイドブックでは、協議会の説明や設立までの手順を説明しています。

地域コミュニティづくりについて興味を持った方、取り組んでみようと思った方に手に取っていただき、ご活用いただければ幸いです。

2. 本町における地域づくりに関する方向性

総合計画における取り組み

目指すべき町の将来像とこれを実現するための施策の基本的な方向を示すものである総合計画において、平成24年3月策定の第4次総合計画中で「協働の推進」として進めてきた取組は、令和4年3月策定の第5次総合計画では、その内容を継承、深化したものとなっており、「住民主体による地域活動やボランティア活動などを活性化させることで、住民の一人一人が参画し、活力あるまちづくりを推進する」ことが明記されています。

基本目標3 施策3-1 住民自治

【重点施策】

地域コミュニティの活性化

- 町民のまちづくりに対する関心を高め、協働のまちづくりへの機運を醸成します。
- 町民による主体的なコミュニティ活動を促進するため、地域運営組織の設立に向けた取り組みを進めます。

「第5次香春町総合計画」（令和4年3月）より抜粋

まち・ひと・しごと創生総合戦略における取り組み

「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、それぞれの自治体の実情に応じて人口減少対策等の地方創生に関する施策についての基本的計画を定めています。本町においては、令和2年2月に定めた「第2期香春町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少に歯止めをかけ、持続可能な地域づくりを行うことを目的としています。持続可能な地域づくりを行っていくために『自らの課題を解決し、安心して暮らせる地域をつくる』を基本目標の一つとし、地域運営組織の形成支援を行うこととしています。

基本目標4 自らの課題を解決し、安心して暮らせる地域をつくる

① 数値目標

地域運営組織の形成数

概ね現在の小学校区ごとに地域運営を1団体ずつ形成するものとして設定

② 基本的方向

学校再編に伴う小学校の廃校を機に、地域住民が各小学校区の未来を考えていく場の提供を皮切りに、住民主体のまちづくりの実現に向けた支援を継続していきながら、地域運営組織の形成を目指します。

施策番号4-1 【住民主体のまちづくりの推進】

概ね小学校区単位での話し合いの場を継続的に設けながら、地域運営組織の形成を支援していきます。

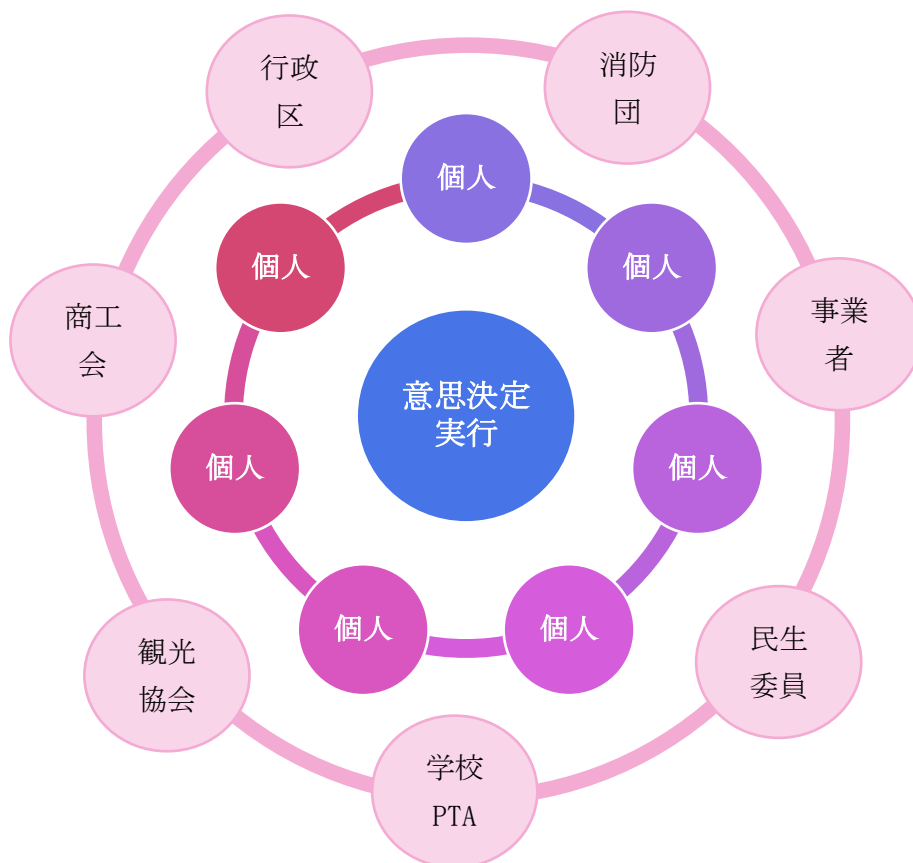
「第2期香春町まち・ひと・しごと創生総合戦略」（令和2年2月）より抜粋

3. 新しい地域コミュニティについて

人口減少が進む中で、多様化・複雑化していく地域課題に対応するためには、地域に住む多様な方同士が自分たちの地域が抱えている課題や必要な取り組みを話し合い、地域が主体性をもって「**地域で決めて、地域で実行する**」ことが必要だと考えます。

「地域で決めて、地域で実行する」という仕組みを動かす主体となっていただきたいのが

地域運営組織（コミュニティ協議会）です。

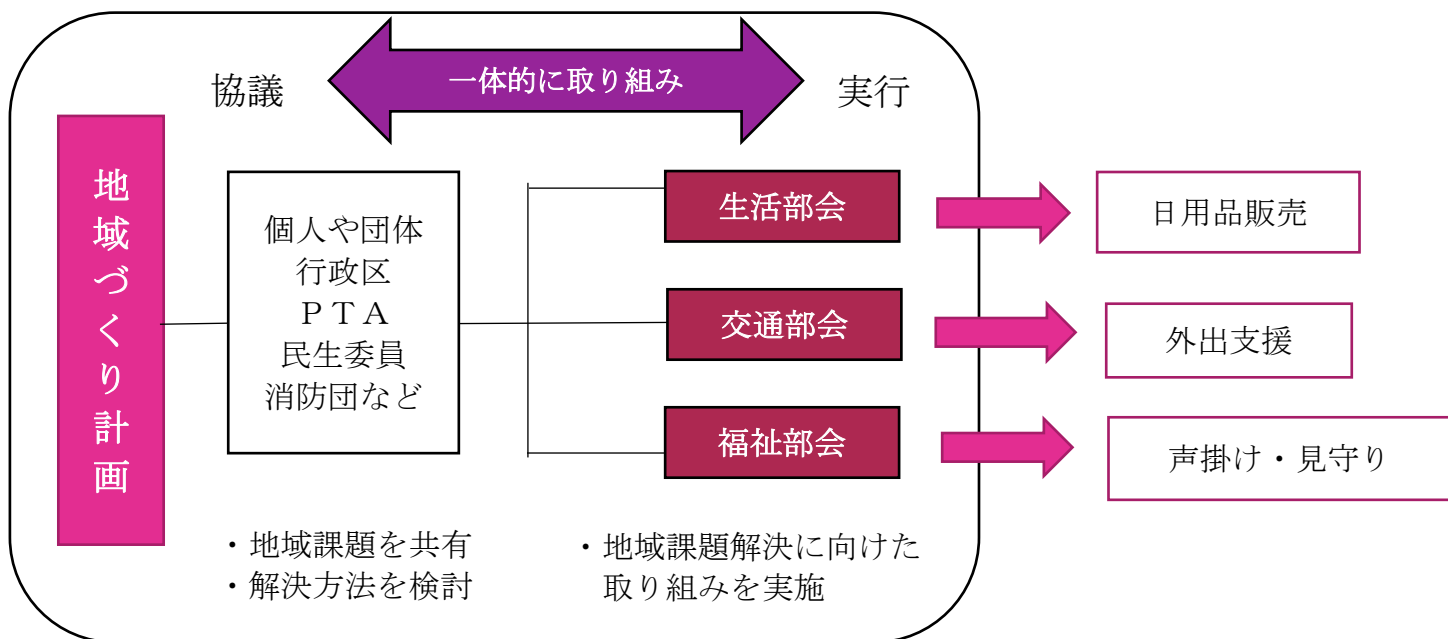


香春町が進める**コミュニティ協議会**の形は、町内で活動されている様々な関係団体と連携・協力しながら、地域課題解決に向けた取り組みを行う組織で、その取り組みに関心のある個人は誰でも自由に参加できるものです。多様な世代の方や様々な団体が活動を通して交流することで、活動の幅が広がり、横のつながりをもったコミュニティになることが想定されます。

4. コミュニティ協議会の仕組み

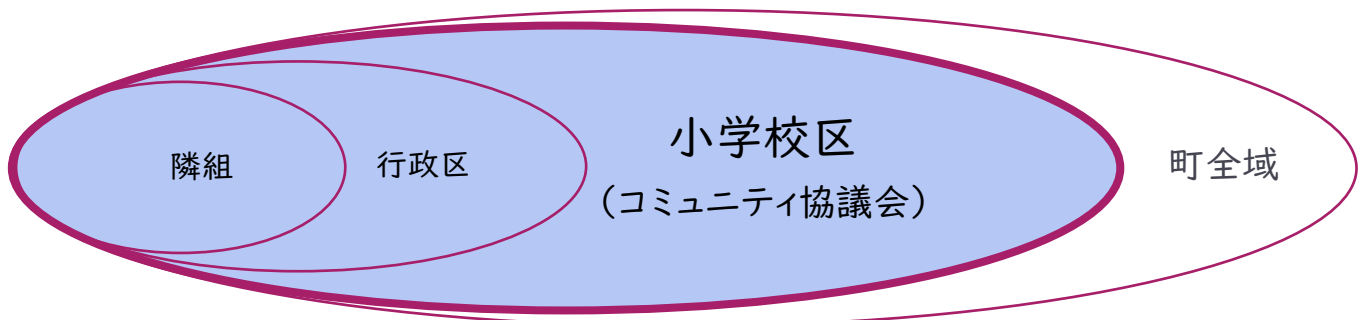
コミュニティ協議会とは、住民の皆さんで考えた地域づくり計画に基づき活動を行う組織のことです。地域特色に応じた内容の「地域づくり計画」を基に、協議会で協議を行い、どうすれば取組を実行できるのかを検討し、部会等の活動に分かれて取組を実施します。実行する部隊と協議する部隊とは常に活動内容の共有や連携、進捗の確認を行い、協議会全体が一つのチームとなり、チーム一丸となって進めていきます。

【組織図イメージ】



形成エリア

この組織の多くは、従来から住民のつながりが強い小学校区を活動のエリアとしている例が全国的に多く、本町においても同様の範囲で取組を進めることとしています。隣組や行政区など、それぞれの単位で可能なことはそこで行い、不可能もしくは非効率なものは、より大きな単位で行うものです。（※香春町では旧小学校区）



5. コミュニティ協議会に期待されるもの

コミュニティ協議会は、地域課題を整理し、解決していく取り組みだけではなく、住民同士がつながり、新しい発想や活動が生まれる場でもあります。地域に住む様々な世代の方、移住された方、地域にゆかりのある方などが関わることで、今までなかった視点で地域を見ることができ、地域の可能性が広がります。また、地域に知り合いが増えることで、生活の満足度が上がり、安心して暮らしていける地域となることが期待されます。

自助、共助の強化

多世代の住民同士がつながり、活動を通して交流が増えることで、日頃から支え合いができる地域づくりが形成されます。日頃の地域交流は、「いざ」という時の助け合いにもつながります。隣近所同士でできる声掛けなどの小さな取り組みが、地域での助け合いに広がっていきます。

地域人材の育成

地域で人材を育成するためには、地域活動に関わりをもってもらうことから始まります。地域活動は、生活に密着している「やらなければならない活動」から「ワクワクする楽しい活動」まで活動内容や参加への思いは様々です。それぞれの思いで活動ができ、また、緩やかに活動に参加できる形にすることで、新たな層の地域活動人口が生まれ、次世代を担う人材の育成へとつながります。



6. 地域づくり計画とその重要性

地域づくり計画とは、地域に住むみなさんが地域の5年先、10年先を見据えて作成するもので、これからの地域活動を計画的・効果的に実行していくために、地域の課題解決のための取り組みや実行期間を記載したものです。今まで個人でバラバラだった地域への思いが、計画の策定により、目指すべき方向や活動がまとまります。

地域づくり計画とは？

地域づくり計画は、地域住民の「こんなまちにしたい！」「こんなことをしたい！」という想いを、基本理念や取り組みなどに分類してまとめたものです。

(例) ○○コミュニティ協議会 地域づくり計画

子育て分野

【将来像】

子どもたちの声が響き、子育てしやすい環境をつくる

子育て世代が集まれる場をつくる

子どもを守るパトロール活動を行う

自然や文化を学び、体験できる活動を行う

防災分野

【将来像】

みんなで守り、助け合える地域をつくる

地域で避難訓練をやってみる

地域の避難マップを作成する

声掛け・見守りリストを作成する

農・環境分野

【将来像】

豊かな自然を次世代に引き継ぐ

農業体験イベントを企画する

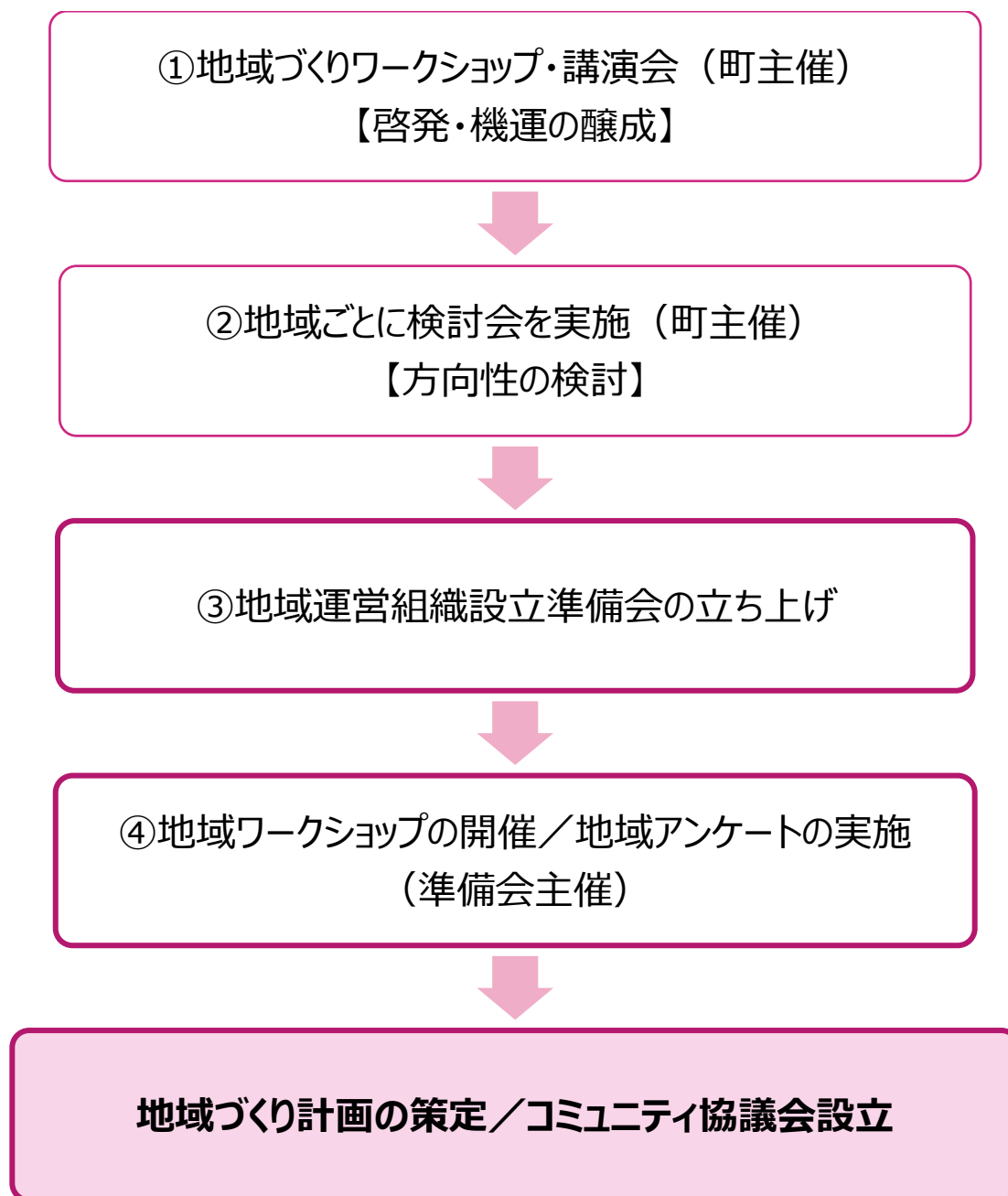
農業用機械の使い方講座を行う

楽しくできる環境活動を考える

「地域づくり計画」を策定するためには、地域住民のみなさんの意見をできるだけ多く集めて、計画に反映することが重要です。意見を多く集める方法として、香春町では、ワークショップという手法で話し合いの場を開催することをおすすめしています。

7. コミュニティ協議会設立までの流れ

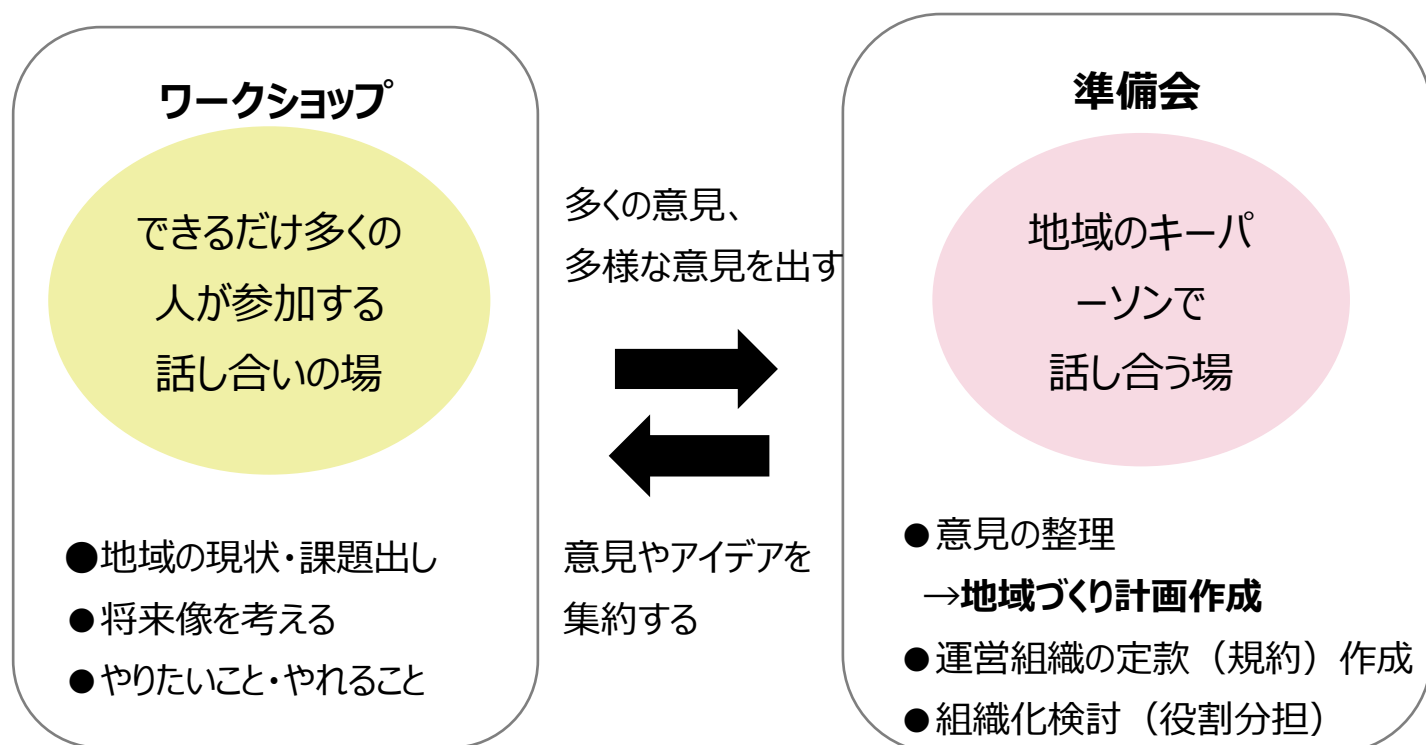
コミュニティ協議会の設立は、下記の流れで進めていきます。進めるうえで大事にしたいことは、地域に応じたペースで進めるということです。地域によって、10か月で組織が設立した協議会がある一方、2年半の時間を要した協議会もあります。重要なのは、地域で意思決定をし、納得感をもって進めていくことです。



8. 準備会をつくろう！

準備会の役割

コミュニティ協議会を設立するには、住民の当事者意識を高めながら、地域課題の解決に向けた動きを進めていく必要があります。そのために、準備会で多くのみなさんの意見を集める話し合いの場（ワークショップ）を開き、ワークショップで出た意見を整理し、地域に応じた計画を策定していきます。



地域の機運を高めるために

コミュニティ協議会の設立や運営は、一人の人が必要性を主張するだけで進められるものではなく、地域全体の「やってみよう」という機運づくりも大切な要素です。地域の機運を高めるために、地域のみなさんと新しい地域コミュニティの仕組みについて理解を深めたり、先に取り組んでいる地域の事例を見たり、地域の現状を学んだりする場を開くと、目指す方向性が見え、地域の機運も高まります。

9. 地域ワークショップを開こう！

立場や年齢などにに関わりなく話し合い、それぞれが感じている地域の魅力や課題を出し合っ
て、「こんな地域にしたい」という未来の思いを共有しましょう。

第1回 話し合いの場

ねらい：地域の現状を知ろう

「地域の魅力と問題点を整理しよう！」



第2回 話し合いの場

ねらい：どんな活動をするかを考えよう

「やりたいこと・やるべきことを整理しよう！」



第3回 話し合いの場

ねらい：どう実行するかを考えよう

「取り組みの優先順位や実行手段を考えよう！」



第4回 話し合いの場

ねらい：地域づくり計画を完成させよう

「地域の将来像を共有しよう！」



10. 誰もが安心して暮らし続けることができる町へ

香春町は、令和元年より住民の方との対話の場を設け、ワークショップなどで様々な思いを聴いてきました。香春町に長らくお住まいの方、移住された方、働かれている方、親族や友人が住んでいる方、多くの人との関わり合いの中で、香春町が長い歴史を刻み、今に受け継がれてきことを実感しました。

現在、香春町の各地域で問題とされている「担い手不足」。人口が急速に減少している中、住民の方の不安や焦り、憤り感が年々増しているという切実な思いを聴きました。

しかし、一方で、「これからもこの町で暮らし続けたい」「この町の暮らしを守りたい」という声がたくさんこの町にあることも見えてきました。

「子どもたちのために、今のうちに何かしてあげたい」「一人暮らしのお年寄りを見守ってあげたい」という思いの一つ一つを大切に、「一人」ではなく「みんなで」活動することで日々の暮らしが守られていくのではないかと思います。

先人たちより受け継がれてきたこの緑豊かな香春町を、これからもみんなが安心して暮らし続けることができる町にするために、住民のみなさんと共に考え、つくっていきたい、そういう思いで香春町はこれからも取り組みを推進していきます。



令和元年：第1回ワークショップの参加者